

# 第6回 「日本語大賞」

テーマ

<sup>いま</sup> <sup>つた</sup> <sup>ことば</sup>  
「今、伝えたい言葉」



小学生の部 優秀賞 受賞作品 生まれてきてくれてありがとう

愛媛県

寺小屋グループ市駅教場

小学3年 相原 咲希

生まれてきてくれてありがとう

愛媛県 寺小屋グループ市駅教場 小学三年

相原 咲希（あいばら・さき）

私が年長の五月、長い間一人っ子だった私に、妹が生まれました。そのころ、ほとんどの友だちに兄弟姉妹がいて、私はいつもさみしいと思っていました。なので、妹が生まれたことがうれしくてうれしくて、ようち園でもたくさん自まんしていました。

でも、妹が生まれてしばらくすると、あることに気が付きました。赤ちゃんは、泣いておっぱいをのんで、ねる毎日のくり返し。生まれたからといっても、いっしょに話したり遊んだりできないので、全く相手にならないのです。

それどころか、楽しみで仕方がなかった妹だったはずなのに、私にはがまんしなくてはいけないことがたくさんふえました。お母さんに話したいことがあっても、妹がおっぱいをのんでいたりと、ねかすつけている時には聞いてもらえません。妹がねている時には、しずかにしてと言われ、外出することもできません。妹が生まれる前は、好きな時に友だちと遊ぶことができたのに、なかなか遊べなくなってしまうました。そのうえ、せっかく遊んでいても、妹がつかれてきげんが悪くなると、大きな声で泣き出すので、私だけ先に帰らなくてはいけないのです。

小さくて、やわらかくて、白くて、とてもかわいい妹。だけど、妹が生まれてからの生活は、楽しいことよりもがまんしなくてはいけないことの方が多くて、私は少しおこっていました。もし、ずっと一人っ子のままだったら、好きな時に好きなことができたのになと思ったりもしました。

あれから三年。赤ちゃんだった妹も三歳になりました。まだまだ小さい妹だけど、実はとってもやさしいのです。私がこけたり、けがをしたりすると、「大丈夫？」と言って、カッターを持ってきてくれます。私がおこられて泣いていると、ティッシュを持ってきて心ばいしてくれます。

時々けんかもするけれど、やっぱり一人っ子の時より楽しい。私が学校から帰ってくる大きな声で「おかえり」と言って、げんかんまで走ってきてくれる妹。妹がいるっていいな。さい高の妹。由茉ちゃん、生まれてきてくれてありがとう。